

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

問題一では、近年出版された、「人類学」について述べた評論が出題され、かつて一橋大学で出題されていた、出版年の古い文章や古風な文体の文章は今年度も出題されなかった。本文は特に読み取りにくいものではなく、設問の方は30字2題、60字1題と、短い字数で答える問題が出題された。これは昨年度とほぼ同じである。また問い四は筆者の論点をまとめる設問であり、近年出題されている「本文全体をふまえて」という設問条件が付された設問と同様、広い視野を求める設問と考えてよい。

総じて少ない解答字数の中で、まとめるのに苦勞する設問が多いと言える。ちなみに今年度も語句の意味を問う設問が出題されず、四年連続で語句に関する設問は出題されなかったことになる。

問題三は、例年通りの200字要約問題であったが、問題一の文章同様、現代的で読みやすい文章が出題された。ただし、字数条件が厳しいため、本文の情報を的確に整理し、情報の軽重を見定め筋の通った解答を作る必要があっただろう。

全体としては昨年度より、やや易化したと言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	問題一	問題三
出典 (作者)	鶴岡真弓「『芸術人類学』の誕生——「根源からの思考」(同編『芸術人類学講義』筑摩書房2020年)所収	中村桃子『翻訳がつくる日本語 ヒロインは「女ことば」を話し続ける』(白澤社 2013年)
頻出度合 ・的中等	入試では時折出題される筆者の文章である。	入試では時折出題される筆者の文章である。
分量 前年比較	<b>分量</b> (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2050字。昨年より約650字減。	<b>分量</b> (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2100字。昨年より約300字増。
難易 前年比較	<b>難易</b> (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	<b>難易</b> (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題一	文化文明論	問い一	記述	やや難	漢字の書き取り。B・Cがやや難しい。傍線部の内容説明問題。第1段落や第3段落の内容を踏まえて書く。傍線部の理由説明問題。ボアズとモーガンの、アメリカ先住民に関する調査のあり方には、それぞれ「文化」や「文明」の概念が強く影響していることを踏まえて解答する。筆者の論点をまとめる問題。本文の中心的な論点である「文化」について書く設問であり、第3段落～第7段落の内容を中心にまとめる。
		問い二	記述	標準	
		問い三	記述	やや難	
		問い四	記述	標準	
問題三	翻訳論		記述	標準	要約問題。言葉とアイデンティティとの関係を考える際に、「本質主義」と「構築主義」という二つの立場があり、「構築主義」を前提として「翻訳」を考える、という論旨を、文章構造を意識してまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題一については、多様な文体の文章・多様なジャンルの文章に取り組み、制限字数内で簡潔に解答をまとめる記述練習を積むこと。漢字や語句の知識の習得にも励むこと。

問題三については、評論はもちろん、エッセイや古い文体の文章も含め、やはり様々なジャンル・文体の文章を読み、200字の要約練習を行っていくこと。

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

昨年度と同じく漢文訓読調の近代文語文が出題され、昨年度同様に硬質な文体であった。  
 設問数は昨年度と同様に3問であった。問い一は昨年度と同じく現代語訳の問題であったが、枝間形式で短めの現代語訳が3題出題された。問い二および問い三は理由説明の問題であった。  
 昨年度は問い二の比喩説明の問題に25字、問い三の内容説明の問題に50字の字数制限がそれぞれ設けられたが、今年度は問い二の理由説明の問題に25字、問い三の理由説明の問題に60字の字数制限がそれぞれ設けられた。  
 また、昨年度はなかった「文章全体をふまえて」という但し書きが問い三に付けられていた。

<本文分析>

大問番号	問題二
出典 (作者)	大西祝「悲哀の快感」
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 1084字。昨年より46字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題二	論説	問い一	記述	やや易	現代語訳。アは「～ばなり」という理由を述べる表現、イは二重否定「なくんばあらず」、ウは「可なり」の意味および推量の助動詞「ん」に注意する。
		問い二	記述	標準	理由説明。25字以内。傍線部の前の「然れども」以降の内容を捉え、制限字数内で簡潔にまとめる。
		問い三	記述	やや難	理由説明。60字以内。第2段落および第3段落の要旨を踏まえ、制限字数内に要領よくまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題二は、現古融合文、現漢融合文、近代文語文、近世の古文などから出題される可能性が高いので、古文、漢文の標準的な学習を怠らないこと。  
 必要な要素を制限字数内に要領よくまとめることが要求されるので、答案作成の練習を怠らないこと。